

様式

技術名称	ポンテラン工法	技術の分類	工法	NETIS登録の有無 (有場合はNETIS番号)	TH-020042-V
会社名等	ポンテラン工法研究会	担当者	山崎 淳	連絡先	0233-32-0022
技術の概要	従来、再資源化が不適とされてきた浚渫土砂等の泥土に繊維質系泥土改良材「ボンファイバー」と固化材を添加・混合することにより、ハンドリング性・施工性を向上させ、優れた強度特性・高耐久性等の機能を付加し、大幅なコスト削減が可能となります。			添付資料	パンフの有無 有り その他の資料 技術資料、積算資料、 施工事例集
技術の特徴	<p>【公共工事のどこに適用できるのか?】 (改良対象土) ・浚渫工から排出される浚渫土砂(泥土) (改良土再利用場所) ・海上築堤工(中仕切築堤材料)</p>  <p>浚渫土砂 → 造成盛土</p> <p>【改良土の特長】 ①改良土を水中で使用する場合には水流に長期間さらされることが予想される。そこで水中耐浸食特性を検討した結果、ポンテラン改良土は未処理土の約10,000倍の耐浸食性を示し、安定処理土の約24倍といった極めて高い耐浸食性を有していることが確認された。 ②降雨や地下水による乾湿繰返しの耐久性を確認するための乾湿繰返し試験の結果、ポンテラン改良土は乾湿繰返しを受けても劣化せず、高い耐久性を有する。 ③砂質土と砂質土を改良したポンテラン改良土の液状化抵抗率(FL)を検討するため、「繰返し非排水三軸試験」を実施した。その結果、ポンテラン改良土は砂質土の13倍(FL=1.50)の液状化抵抗率を確認した。 東日本大震災では、河川堤防や港湾構造物等の液状化によりせん断破壊やクラックが確認されたが、ポンテラン改良土を用いた築堤箇所では被害が確認されず、地震対策用地盤材料としての有効性が確認された。 関東地方整備局主催 建設技術フォーラム2011で「東日本大震災で効果のあった技術」として応募総数165技術の中から6技術の一つに選定された。</p>  <p>安定処理土 ポンテラン改良土</p> <p>図 水中不分離性試験</p>			その他	 <p>1 泥土 2 ボンファイバーの投入・攪拌</p> <p>3 固化材の投入・攪拌 4 敷均し</p> <p>5 締め 6 完成</p> <p>施工手順</p>